グリーンスクールヤードの力と可能性

希望につながるトレンド

初出： Children & Nature Network, The New Nature Movement: Guest Columns, February 7, 2014. 写真と文章 © Sharon Gamson Danks, 2005-2023. Translation by Shunji Suzuki.

シャロン・ギャムソン・ダンクス
日本語訳：鈴木俊治

公立学校区(public school district)は、アメリカだけでなく世界中のほぼすべての都市や町において、最大の地主のひとりです。アメリカだけでも13,000以上の学校区に132,000以上の学校があり[1]、3歳の幼稚園生から18歳の高校生まで5千万人以上の子どもたちが通っています[2]。

校庭など所有地がどのように管理運営されるかは、そこで時間を過ごす住民さらには都市に対して大きな影響を与えます。子ども時代にどのような屋外活動を経験するかは、その人の人生観形成に多大な影響を与えるのです。グリーンスクールグラウンド運動は、全米さらには世界中で支持を得つつあります。子どもたちと自然を結び付け、学術的な研究、公衆衛生や子どもたちのウェルビーイング、場の特性の増進と連携し、コミュニティの関与を高め、都市の持続可能性とエコロジカルデザインを発展させるのです。

グリーンスクールヤード（緑の校庭）は、都市や郊外に自然を回復させます。校庭の平坦なアスファルトや草地を、学びや遊びに使える生き生きとした環境に変えていきます。それは地域の豊かな自然特性に合ったもので、自然の生態系を回復し、新たな都市のインフラストラクチャーとなっていきます。グリーンスクールヤードは子どもたちの社会的、身体的、知的成長や健康増進に寄与します。子どもたちの好奇心、協力する心、想像力、探究心、冒険心、興味をかきたてます。

もし私の社会が、校庭の改善を通して、学校区（自治体）全域におけるエコシステムを改善することができるなら、社会の複雑で相互関連した問題の解決に向けた大きな一歩を踏み出すことができるでしょう。都市全域に渡り大型の校庭をグリーンにすることができるなら（訳者注：グリーンにするとは、単に緑化することではなく、本文で書かれている多様な手法を盛り込むこと）、次のことが実現できるでしょう。

自然へのアクセス

日常生活における自然とのふれあいー全ての校庭がグリーンスクールヤードになるなら、全ての都市の全ての子どもたちが、日常的に、地域の豊かな自然に触れ合うことができます。社会経済状況、人種、文化の違いを超えて、自然へのアクセスが民主的に開放されるのです。

バランスー校庭における日常的な、実際に自分の手で触れることができる自然とのつき合いは、ますます進行しつつあるデジタルワールドにおいて、実世界とのバランスを保ち、実感覚的な体験を増やすことに役立ちます。

センスオブプレイス（場の特性）ー地域固有の自然素材、植物を使ってつくられたグリーンスクールヤードはそれぞれ個性的で、地域の地形、生態系、文化を反映させたものになります。そこで時間を過ごす子ども、大人たちはセンスオブプレイスを感じ、その感覚が育成されます。

エコロジカル・インフラストラクチャーの再生

水ー雨水の管理を組み込んでデザインされた校庭は美しく、機能的で、教育にも役立ちます。雨水を一時貯留し、浄化してから放流します。

生態系ー地元種によって構成された校庭は、地域の生態系の保全と回復に寄与し、野生種が生育するエリアを増やします。

気候ー中高木や植栽によって子どもたちが快適に過ごせる日陰がもたらされ、太陽光への露出が減ります。ヒートアイランド現象の改善、冷房費用の削減にもなります。

エネルギーー校庭に再生可能エネルギーを生産する設備や工夫を導入し、子どもたちやコミュニティにクリーンエネルギーについて教育し、デモンストレーションを行うことができます。

材料ーサステイナブルな自然素材、リサイクル素材を用いたランドスケープを施すことによって、校庭を造り維持することによる環境負荷の低減を図ることができます。

教育・学習環境の改善

高い教育成果ー既往研究によれば、多くの子どもたちは、グリーンスクールヤードで、実際に手で触るという体験を通して、より良く学ぶことができるとされています[3]。

教員の満足度向上ー屋外での良好な教育環境は、多くの教員に高く評価されています。教室からすぐ近いところに豊富な教材があり、それを用いて多様な教育を行うことができます。

いじめの減少ーグリーンスクールヤードは想像力豊かな遊びの場となり、子どもたちの社会や遊びの環境を多様化します。それによって子どもたちは退屈することがなくなり、社会的リーダーシップ構成が養われます。いじめの減少などしつけ面でも効果が報告されています[4]。

健康とウェルビーイング

肥満の防止ーグリーンスクールヤードの環境において、子どもたちが主体的に探検し想像力を持って遊ぶことによって、肥満の防止や解消になります。

健康的なライフスタイルーグリーンスクールヤードにおける屋外遊び、育成を中心とするガーデニング、クッキングプログラムなどは、健康的なライフスタイルにつながります。それらはさらに人生全体にわたる健康の増進、安全な水の確保、様々な道具の利用法習得など、様々なスキル習得の場となります。

ウェルビーイングの改善ーあらゆる種類の緑の空間はなんらかのセラピック効果を持っています。そこで過ごすことによって血圧が下がり、リラックスできます。子どもたち、先生、学校の管理者、来訪者のウェルビーイングが改善されます。

コミュニティの参画

エンパワーメントーグリーンスクールヤードは、あらゆる年代の子どもたちが、自分たちの地域のエコシステムを修復し、変化を起こす経験が得られる場です。そこでは協働による環境活動によって、エコフォビア（家恐怖症）に対する明快で前向きな解決方向が得られます。協働に対する信頼が得られるのです。それは、子どもたちにとっても大人たちにとっても、楽観的で希望のあるメッセージです。

スチュワードシップー校庭を「管理する」から、より広い概念を持つ「育成する」に変えることによって、学校のあるコミュニティは学校区（自治体）のパートナーとなります。それらの協働によって、マネジメントコストの削減になるばかりでなく、地域の参加とコミュニティ形成を促します。

校庭は、活発で想像力をかきたてる多様な遊びの場とすることができる。自然素材を使い、地元の植生を取り入れ、十分に検討されたデザインの遊具によって、子どもたちは主体的に、際限なく遊びを生み出していく。

グリーンスクールヤードは、私たちと自然界の関係を回復していく大切な拠点です。今は、全世界で、校庭に対する投資の考え方を改める好機です。グリーンスクールヤード運動は、全ての子どもたちが、毎日、自然に接する機会を増やすとともに、地域のエコシステムを修復し、環境から学び、健康を回復する力を持っているのです。

校庭は、活発で想像力をかきたてる多様な遊びの場とすることができます。自然素材を使い、地元の植生を取り入れ、十分に検討されたデザインの遊具によって、子どもたちは主体的に、際限なく遊びを生み出していきます。

小さなスケールのグリーンスクールヤードプロジェクトは、今日、全米各地で見ることができます。それらは多くの成果を挙げていますが、一方、十分な潜在力を引き出すまでの投資には至っていません。

グリーンスクールヤード運動を全米及び世界に拡げ、学校区にパラダイムシフトをリードするよう促しましょう。それにはコミュニティ、地元の供給処理機関、健康増進に関する組織、関連組織の協力が必要です。

私たちのもつ資源や能力を、校庭というひとつの場所に集約することによって、地域や子どもたちがえる将来の利益を大きく増やすことができます。それは難しいことでしょうか？そうかもしれません。しかし私たちはどこから始めるべきかわかっており、そして社会を変えることができるのです。

NOTES

[1] National Center for Education Statistics,"Digest of Education Statistics," "Table 5: Number of educational institutions, by level and control of institution: Selected years, 1980–81 through 2010–11."

[2] National Center for Education Statistics, "Fast Facts"

[3] Children & Nature Network, "Children's Contact with the Outdoors and Nature: A Focus on Educators and Educational Settings," 2010.

[4] Louv, Richard, keynote presentation for the San Francisco Green Schoolyard Alliance's Growing Greener School Grounds Conference. San Francisco, CA (October 10, 2008).

著者略歴

シャロン・ギャムソン・ダンクス Sharon Gamson Danks 環境プランナー。カリフォルニア州バークレーを本拠地とするNGOであるグリーンスクールヤードアメリカ(Green Schoolyards America)最高責任者CEO。アスファルトからエコシステムへ：スクールヤードデザイン変革のアイディア（Asphalt to Ecosystems: Design Ideas for Schoolyard Transformation）著者。NGOインターナショナル・スクールグラウンド・アライアンス(The International School Grounds Alliance)共同設立者。校庭を地域の生態系を反映し増進した活動的なパブリックスペースに変え、子どもたちの学びや遊びを育み、コミュニティへの関わりを深める活動に取り組んでいる。

より詳しくは下記 ウェブサイトをご覧ください（英語）

Green Schoolyards America
www.greenschoolyards.org

The International School Grounds Alliance
www.internationalschoolgrounds.org

日本語訳

鈴木俊治。都市デザイナー／プランナー。有限会社ハーツ環境デザイン代表。明治大学、早稲田大学、東京大学他講師。翻訳書（共訳）に「パブリックライフ学入門 "How to Study Public Life (by Jan Gehl and Birgitte Svarre)"」、「オープンスペースを魅力的にする "How to Turn a Place Around (by Project for Public Space)"」など。